

## コンクリートの耐久性確保に係る措置について

昭和61年6月2日付建設省住指発第142号による「コンクリート中に含まれる塩化物総量の規制」、平成元年7月17日付建設省住指発第244号による「アルカリ骨材反応抑制対策に関する指針」が定められ実施されています。

平成31年4月分の製品の分析結果は下記の通りです。

### 1. コンクリート中に含まれる塩化物総量の規制

コンクリート1立方メートル中に含まれる塩化物(塩素イオン換算)の含有量を0.3kg以下とする。

ベストン中に含まれる塩分濃度

$$\begin{array}{l} \text{NaCl} \quad 0.002 \% \\ \text{塩素イオン換算値} \quad \text{NaCl} \times \text{換算係数} \\ \quad \quad \quad 0.002 \% \times 0.607 = 0.0012 \% \\ \text{[注] } 0.607 \text{ は換算係数 (Cl/NaCl=35.5/58.5=0.607)} \end{array}$$

### 2. アルカリ骨材反応抑制対策に関する指針

普通ポルトランドセメントを使用する場合、コンクリート1立方メートル中に含まれるアルカリ量(酸化ナトリウム換算)の総量を3kg以下とする。

ベストン中に含まれるアルカリ量

$$\begin{array}{l} \text{Na}_2\text{O} \quad 0.130 \% \\ \text{K}_2\text{O} \quad 0.91 \% \\ \text{Na}_2\text{O}_{\text{eq}} \quad \text{Na}_2\text{O} + 0.658 \times \text{K}_2\text{O} \\ \quad (\text{R}_2\text{O}) \quad 0.130 + 0.658 \times 0.91 = 0.729 \% \end{array}$$

### 3. 単位セメント量を300kgとした場合の計算例

$$\begin{array}{l} \text{①コンクリート1m}^3 \text{中のベストン量} \\ \quad 300 \text{ kg/m}^3 \times 6 \% = 18 \text{ kg/m}^3 \\ \text{②ベストン中に含まれる塩分} \\ \quad 18 \text{ kg/m}^3 \times 0.0012 \% = 0.000216 \text{ kg/m}^3 \\ \text{③ベストン中に含まれるアルカリ量} \\ \quad 18 \text{ kg/m}^3 \times 0.729 \% = 0.13122 \text{ kg/m}^3 \end{array}$$

以上

平成31年4月26日

## 分析試験結果報告書

御中

ベストン株式会社

東京都荒川区西日暮里5-2-19

TEL 03-5615-3165 FAX 03-5615-3166



試料番号	CG03952・03954
試験年月	2019年4月
品名	ベストン

分析項目	規格値	分析値	
Ig.loss	6 % 未満	4.88	%
SiO <sub>2</sub>	70 % 以上	72.3	%
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	15 % 未満	11.40	%
Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	5 % 未満	3.53	%
CaO	5 % 未満	1.31	%
MgO	5 % 未満	2.03	%
R <sub>2</sub> O	1.5 % 未満	0.729	%
NaCl	0.05 % 未満	0.002	%
Na <sub>2</sub> O		0.130	%
K <sub>2</sub> O		0.91	%
Cl <sup>-</sup>		0.0012	%
密度	2.64 ± 0.2	2.68	g/cm <sup>3</sup>

※注 R<sub>2</sub>O=Na<sub>2</sub>O + 0.658 × K<sub>2</sub>O (%)

Cl<sup>-</sup> =NaCl × 0.607 (%)

分析試験実施機関

JFEテクノリサーチ株式会社

ソリューション本部(千葉) 本部長 藤本 京子  
〒260-0835 千葉市中央区川崎町1番地(JFE千葉構内)

TEL 043-262-2313 FAX 043-262-2199